

第8分科会

問題意識から始める授業改善ワークショップ

ファシリテーター: 榊原 暢久 氏 (芝浦工業大学・教育イノベーション推進センター 教授)
吉田 博 氏 (徳島大学 高等教育研究センター 講師)
西野 毅朗 氏 (京都橘大学 教育開発支援センター 専任講師)

分科会概要:

本分科会は、授業改善のためのワークショップである。授業者は学生に授業を提供するにあたり、様々な悩みや困難、さらに良い授業をつくるにはどうしたらいいかという終わりのない探究に直面しているのではないだろうか。

「学生の学習意欲や関心をどうすれば高められるだろうか。」
「自分が思っていたほど学生の理解度が良くない。どうすればいいだろうか。」
「学生にペアやグループワークをさせようとしてもなかなか積極的な議論にならない。」
「積極的な議論をしているようだが、議論の質はいまいちだ。」
「私語は減ったが、その分スマートフォンなどで別事をしており授業に集中していない。」
「大規模講義科目で、学生参加型の授業をするためにはどうすればいいか。」
「学生のレポートやプレゼンテーションを評価したいが、人数があまりにも多い。」
「ルーブリックを用いた評価を試してみたが、どうもうまくいかない。どうしたものか。」
「学生の卒業論文の質が低い。個別指導にも限界がある。」
などなど…

上述のような参加者の日頃の授業実践から生まれる悩みや疑問などの問題意識を出発点として、どうすればよりよい授業ができるかを参加者同士で議論し、互いの考え方や工夫を共有し、授業をブラッシュアップしていく。

講師は全員FDの専門家である。ワークショップをファシリテートしつつ、適宜助言を行う。なお申込者の方々には事前にアンケート(現在の授業の悩みや相談事を自由にお書きいただくもの)にご回答いただく。その結果を元に、当日の具体的なプログラム構成やグルーピングを決定する。来年度からの授業をよりよいものにしていくための具体的なアイデアがほしいと考えている方々に広くご参加いただければ幸いである。